

## オーストラリア夏期英語研修

法学部法学科法律学コース 2年 下田百江

### 授業について

朝 8:30~12:45 まで授業があり、大体 10:30 前後で 20 分程休憩がありました。

私のクラスは、首都大生 8 人、中国人学生 2 人、コロンビア人学生 1 人、日本人学生 6 人(但し、第 4 週目は 2 人)の合計 17(13)人でした。

クラス内で数人のグループになって勉強をしますが、毎日そのメンバーは変わるので、数日もすると、すぐに皆と話せるようになります。私のクラスは日本人が多いにも拘わらず、一部を除けば、かなり英語を話していたと思います。

授業で一番伸ばせる技術は、writing だと思います。その理由は、本番のテストに向けて一度模擬テストのようなものを受けますが、その結果を先生が丁寧に添削してくれます。そして、一対一のフィードバックも行ってくれるので、どういう表現を使えばよいかも分かり、次に活かします。質問等にもきちんと対応してくれるので、とても有意義でした。この作業は、任意提出の宿題でも同じことが言えるので、私は必ず文章を書いて、先生に見てもらっていました。

### ホームステイについて

私がお世話になったホストファミリーは、オーストラリア人でとても明るい人達でした。冗談が大好きな人達だったので、英語が拙い私は、正直どこまで話を信用していいのか戸惑う時もありましたが、そんな冗談でさえも私に丁寧に解説して、楽しませてくれました。ホストマザーは大抵、私レベルの英語力で、とてもゆっくり話してくれたので、とても理解しやすくまた話しやすかったです。そして、私と歳の近い娘さんがいたので、よく色々なお話をしました。このご家族は、常に私が理解出来るよう協力してくれ、分からないことはどんどん聞いて欲しいと温かく受け入れてくれたので、私もストレスなく積極的に関わり合い続けられました。家族をととても大切にすご家庭だったので、私も本当の家族のように扱ってもらい、素晴らしいホームステイとなりました。

### 課外活動について

ここでは主にバディープログラムについて書きたいと思います。バディープログラムとは、マッコーリー大学に通う学生と首都大生が交流する機会です。様々なテーマに基づいて、話をします。speaking と listening をフル活用出来ます。ここで現地学生さん達と仲良くなれることもメリットの一つであり、私はここで仲良くなった人と放課後一緒に遊んだり、お昼を食べました。日本に帰ってきた今でも、連絡を取り合っています。首都大が組んでくれるプログラムには必ず現地の学生さんが数名いてくれるので、そこで人脈を広げている方もいました。

### 現地の様子や生活

オーストラリアは本当に多文化多民族国家です。お店には様々な国の料理がありますし、街に

出れば、様々な人種の方がいます。日本人の留学生がぼつんと歩いていても全く浮きません。現地の人もとても優しく、フレンドリーな方が多かったです。シティー自体も治安はかなりいいほうだと思います。

ただ、日本と違って驚いたことは、電車やバス内で飲食をしたり、電話をしても全く問題ないことです。あとは、電車が土日の間、全く機能しない日が4週間いると、恐らく1回はあるので、注意する必要があります。外国に多い共通点かもしれませんが、お店もほとんどが18時頃には閉まるため、ショッピングセンターは20時頃になると閑散としています。ただし、スーパーのみは遅い時間まで開いています。

### 自由時間の過ごし方

自由時間は平日の午後と土日があったので様々なところへ行きましたが、個人の行きたいところに自由に行けばいいと思います。私は何をするわけでもありませんが、街をただあてもなくぶらぶら歩いたり、ビーチに食料だけを持って行き、近くのベンチに座ってぼーっと海を眺めているだけの時もありました。

個人的におすすめなのは、オペラハウスの見学ツアーと公演を見ることです。前者は様々なことが知れて、面白いですし、後者は雰囲気を楽しむということがメインにはなりますが、興奮します。

もう一つは、コアラパークという動物園です。オーストラリアにはいくつか大きくて有名な動物園がありますが、ここが一番オススメです。オーストラリアの代名詞とも言えるような動物は高確率で起きています。そして、人が少ないのでゆっくり見れます。ここでは、コアラに触ることも可能です。マッコーリー大学の駅から割とすぐ行ける距離にあります。

### この研修を通して学んだこと

自分が能動的になれば、様々なものが収穫できると思います。それこそ現地の学生さんに積極的に話しかけることで、友達は出来るし、speakingの向上にもなります。ちょっとしたお店でも、日本でいう“いらっしゃいませ”が挨拶から始まり、それがちょっとした会話のきっかけになり、自分から会話を広げれば相手も乗ってくれます。

帰国してからも自分なりに英語の勉強を継続していますが、個人的には出発する前も勉強しておけばよかったと思います。もちろん、向こうに行っても様々な方がフォローをしてくれますが、聞いているばかりか言い換えたことにしか反応できなかったのも、もどかしい思いでした。思っていることを伝えるのは、言語が変わるだけで、こんなにも難しいことだったんだなと思いました。

私はもう一度オーストラリアに戻って勉強したいくらい、素晴らしい地で勉強等に適した国だと思っています。このテキストがぜひ、留学を考えている人のお役にたてていたら幸いです。